

信録ニ、中心藥高出、花瓣外一寸許、如燭承盤狀、故一名照殿紅ト云、其藥ニ黃粉多ク著テ、蜀葵花及木槿ノ藥ノ如シ、故ニ集解ニ、上綴金屑ト云、朝ニ開キ暮ニ落ツ、後實ヲ結ブ、下種スベシ、生ジ易シ、又枝ヲ扞挿スベシ、大紅ニシテ千葉ナル者アリ、八閩通志ニ、鶴頂ト云、汝南圃史ニ、又小牡丹ト云、又黃色ナル者アリ、黃赤色ナル者アリ、福州府志ニ、佛桑淡黃者、俗名金木蘭ト云フ、薩州山川ノ湊ハ極暖ノ地ナリ、土人扶桑ヲ以テ籬籬トナスモノアリ、花時觀ルベシト云フ、

増、扶桑ハ、慶長十九年、始テ琉球ヨリ來ルコト、忠家○忠家恐日記ニ見ヘタリ、近年花戸ニ紅白相交ル者アリ、ヤグラザキアリ、又カズサキノモノアリ、花小ナリ、又一輪ザキト云モノアリ、花大ニシテ二三輪許モ開ク、共ニ挿シテ能ク活ス、

〔白石子筆語〕上枕中方の榼も似よりたる事候、舊事紀の神名にも、又日本紀に古今の人名にも、榼と稱し候有之候、日本紀には榼は此に武矩と注せられて、すなはちムクエノキと申すもの、某庭上に有之候もの、先日被仰候、駁樹の事にて候、これはいかにも大木有之ものにて候、エノキと一類にして、二種のものにて候、以上、

〔地錦抄附録〕三寛文中渡品々

扶桑花フサウカ 琉球より來る由、寒氣をおそれ各枯る、中絶して又享保八年に來る、佛桑花共〔百品考〕下右納 和名ハマボウ

中山傳信録、右納樹高三四丈、葉似白桐、夏季開花、如中國秋葵、黃瓣檀心、

暖地ノ海邊ニ自生多シ、又花戸ニモ多栽ウ、樹ノ高サ丈餘、樹ハ木槿ニ似テ、葉ハ烏柏ノ形ニシテ厚シ、又白楊ニモ能似タリ、邊ニ細鋸齒アリ、背ニ微白毛アリ、夏葉間毎ニ五瓣ノ黃花ヲ開ク、底濃紫色ニシテ秋葵ノ花ニ似テ小ナリ、朝ニ開テ夕ニ落ルコト、木槿ニ同ジ、花後實ヲ結ブ、又木槿ニ同ジ、